夢か現実か？？

ZERO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
夢か現実か??

【Ｎコード】
Ｎ６１０５Ｙ

【作者名】
ＺＥＲＯ

【あらすじ】
何故か異世界に呼ばれた私は何故か魔王を倒してほしいと懇願されまぁ自分にできるのならと　頑張ってみる主人公南涼（女、１５歳）
主人公は現実世界で嫌なことがあり異世界で現実逃避することにしました。

第一話

夢を見ていた。とても楽しい夢。心がとてもあたたかく満たされるような夢を。だからこそ目覚めた時まだこれは夢なのかと思った。でもそんな私の考えを誰かが否定した。

「いいえこれは夢ではありませんまもなくお迎えがきます。起きてください」

優しい声に誘われるように私の意識は覚醒した。

目が覚めた私は回りの異変に気が付いた。回りが緑だらけいつの間に私の部屋はジャングルになってしまったのか。

たしか昨日はいろいろあって早々とベットに横になるなり寝入ってしまったのだ。　なんだこれはとかなり私は混乱してしまった。

そんな私にまた誰かが優しく話しかけた。

「大丈夫です。時期に人が来ます。　くわしい話しはその方達に聞いてください」

その声が聞こえてまもなく人の話し声が聞こえてきた。

第二話

「もう、なんでこんな森の中に召喚されてるのよ」

「しょうがないでしょ巫女様がちょっと失敗したらしいのですから」

そんな声とともに私の前には三人の男女があらわれた。そんな三人に驚いて固まってしまった私にどんどん近くにやってきた。

「大丈夫ですか？急な召喚でどこかお怪我をしたり気分が悪くなったりしていませんか？」

「いえ、気分が悪くなったり怪我なんかしていないんだけど。いったいここはどこなんでしょ？」

私の頭の許容範囲はもはやいっぱいいっぱいだと訴えているように酷い頭痛がしていた。

第三話

「ここはシルバー王国といって女王フリージア様が治めるくにです。あなたは理由あってこの国に召喚されたのです。」

なんだこの小説みたいな展開は。まさか魔王を倒す勇者にでもなれというんじゃないだろうか。そんなことごめんだな。ただでさえ面倒くさいのはきらいなんだ。そんなことやってらるか。

「あのすいません。どうかなされましか？やはり気分が悪いのでしょうか？」

私はその声で正気に戻った。とにかく現状把握が必要だと考えた。

「あの、いったい何故私がその巫女様に召喚されたのでしょうか？」

「その事につきましても詳しくお話ししたいと思いますのでとりあえずお城のほうに参りましょう」

「そうよ、いつまでこんな森にいなくてはならないのよ」

なんだこの女は急に大きな声をだしてイライラして更年期か？

急に女に睨まれたので私はいそいで視線を優しそうな青年に向けた。

第四話

「さあ、お城のほうに参りましょう。あっ、その前に自己紹介をしましょうか？私の名前はレイチェル・クライス、どうか気安くレイとお呼びください」

「わかりました。レイと呼ばせていただきます。えっと、私の名前は南涼です。涼とよんでください」

そういって私はぺこりと頭を下げた。

「わかりました。涼と呼ばせていただきます。」

そして、私は視線をあの女の人に向けた。

「私はフランチェスカ・クラウンよ。フラン様と呼びなさい」

「こら、なにをいってるんですか。涼、フランでかまいませんからね」

私はいったいどっちで呼ぶべきなのかと考えたけど呼ぶ時に考えようと考えるのをやめた。

そして、私はレイの後ろに隠れていた女の子に目を向けた。

第五話

私の視線に気が付いたのかその少女は前にでてきた。

「私の名前はステファニー・シルバーです。シルバー王国の第４皇女です。どうかステフとお呼びください」

彼女は小さいながらも優雅に私に自己紹介をしてくれた。私に彼女と同じぐらいの妹がいるのでなんだかとても可愛く思えてきた。

「それではさっそくお城の方へ参りましょうか。すぐ近くですので。」

私は彼ら三人の後をついてこの森を抜けいく。レイが言うように森を抜けると目の前にはかなり大きなお城があった。

「さあ、涼お城についてとりあえず着替えてそれがすんで女王と謁見してもらいます」

「はぁ～、なんだかめんどうだよ。どうしても会わないといけないの？」

「お会いしてもらわないとこれから先どうするかが決まりませんから。勝手なお願いになるんですが、涼にはぜひともやっていただけなければいけないことがあるんですよ」

「あぁ～、もう早く城にいくよ」

フランが1人でどんどん先にいくので私達はいそいで彼女を追いか

けた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6105y/

夢か現実か？？

2011年11月21日21時42分発行